

## 第5回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日 時】平成31年1年30日（水）9：30～11：00

【出席者】委員 11名

【欠席者】委員 3名

【傍聴人】 0名

【事務局】 5名

### 1. 開会

- ・委員長あいさつ
- ・配付資料確認

### 2. 議題

#### 上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証結果報告書(案)について

- ・委員長は、これまでの委員会の中で修正や再検討の指示があった事業評価シートの修正後内容について確認する回であり、最終回を予定していることを説明した。
- ・事務局は事業評価シートの修正内容52か所について説明した。

#### 【不妊治療助成制度の創設】、【不育症治療助成制度の創設】

牧浦委員：産婦人科、小児科、保育園、幼稚園で啓発活動を行うとあるが、子どもができない人はそのような施設へ訪れることが少ないので、それらの施設での周知は効果が低いのではないか？

事務局：担当課には他の啓発方法がないか、もう一度確認する。

牧浦委員：先日会った治療を受けている人でも、この制度のことを知らなかった。周知する方法を考えてほしい。

事務局：現在奈良県下で不妊治療を主に行っている機関は19か所あるが、これは近隣ではない。この19か所に啓発パンフレットを置けないか等を担当課へ相談する。また、担当課の考え方の補足として、この啓発内容は2人目の不妊、不育に対する周知場所として当該の施設を挙げていることを伝えておく。

辻委員：4. 今後の方向性の欄に、今後も検討し拡大していくと記載があるので、これで良いと考える。

委員長：担当課へは委員からの意見を伝えること、ただし、報告書としてはこの報告書案で了解する。

白銀委員：不妊症の治療費助成について、国が実施していることは知っていたが、町も実施してい

ることは知らなかった。ロコミで広めていきたい。

事務局:国の補助は体外受精等の治療段階が進んでいる内容が補助対象であり、町の補助はより前段階の治療が対象である。

白銀委員:申請はどこで行うか?

事務局:町の補助は生き活き対策課へ申請してもらおう。国の補助は保健所である。

牧浦委員:町の補助対象の治療から段階が進むときに、国等の補助制度の案内はあるか?

事務局:案内をしている。周知方法に関しても再度担当課に伝えることにする。

### 【地域イベントへの招待】

辻委員:事業の見直し余地の欄で過去の出演者、出展者へ働きかけるという言葉が出てくるが、過去だけではなく、未来志向が伝わるような文章にしてほしい。

事務局:未来をつくるための人脈を構築したいと考えての文章であるので、文面は再考する。

辻委員:未来のためのという言葉がキーワードとなる。

副委員長:新規の参加者を求めていることがわかるような表現とすること。

### 【UR住宅の活用協議】

吉田委員:現状のURの取組や、入居が少ない危機感を文書化して、その上で今後の取組方針を述べていくことを希望する。

事務局:追記、訂正する。

吉田委員:窓口となる自治会が現状をよく知っている。話し合い含めて協議してほしい。URからは12月に今後15、6年間の方針が示されている。また、最近では住戸内の修繕が民法の改正によりUR側の責任となっている。このようなことを含めて入居促進の材料としてはどうか。

事務局:自治会とも話をして追記等を行う。

### 【防災訓練の定期的な実施支援】

辻委員:経費の上下段の違いはどのように見たらよいか。

事務局:平成29年度で説明すると上段は当初予算で、下段は決算見込み。平成30年度では上段は予定、下段は予算となる。数値は平成29年度が終了した時点のものである。

辻委員:この表だけでは不明瞭で、わかりにくい。備考等に記載できないか。

事務局:公表の際には評価シートの見方を添付する。

辻委員:他のページを見ないと理解できないのではなく、一目で見てわかる工夫がほしい。

事務局:これは平成29年度の事業の表であり、時点での計画として上段で計画、下段で実績として記している。

辻委員:わかりにくい。

吉田委員:平成30年度取組予定の欄で第二小学校の取組予定とあるが、実際には二中で実施し

たと記載してはどうか。

事務局:本評価シートは平成 29 年度の事業が対象であるので、そのことは平成 30 年度の評価シートで検証する。

白銀委員:平成 29 年度の事業費予算 183 千円、決算見込 83 千円とあるが、決算見込 183 千円の間違いではないか?

事務局:当初予定していた金額と決算見込が変わったということで報告をもらっているの間違いではない。

### 【自治会設立支援】

宮城委員:災害対応のためには地域のコミュニケーションをとることが大事。また、教育委員としては子どもたちを地域で見守ってもらうことにつながるので、若い方が多い地域では難しいこともわかるが自治会を設立して子ども達を見守る活動をしてほしい。

事務局:自治会活動については、他委員会内でも高齢化や加入率の点で問題があると言及されたり、他自治体のニュースでは自治会に加入しないとゴミの回収をしてもらえない等の問題が報道されている。子どもの見守り活動や災害対応についても自治会活動が大切だと考えているが、地域の代表者が無い状態で誰に話をしたらいいかということも課題である。早期に自治会を設立できるように協議していきたい。

## 3. その他

### (1) 修正箇所の確認方法について

委員長:今回が最終回となる予定だが、今回発生した修正箇所の確認方法についてはどのように考えるか。

西山委員:修正箇所については委員長の確認でよい、委員長一任としたい。

委員会:委員長と事務局への一任で良い。

委員長:それでは今回の修正箇所については委員長一任とし、他はこの内容で了承する。

事務局:修正後には最終版として委員へ送付する。公表については「検証結果(事業評価及び進捗状況)報告書」を公表する。

### (2) 今年度の総括

牧浦委員:昨年よりもより良い検証ができた。議論が深まると時間が足りなくなる。時間がかかることが予想される回は委員会の時間を長く取る等で対策をとってほしい。

辻委員:報告書は各委員からの要望を取り入れた形で良くできている。予算が空欄の事業については通常の業務範囲で賄えているということか。

事務局:未実施は費用がかかっていないのはもちろん、実施していて経費が空欄の事業については、特別な事業費がかからないような方法で行っているということ。

吉田委員:行政の実施事業をすべて知っているわけではないが、現状が不明なことについては答

えようがない。良いことが書いてあるのでこれで良いと考えてしまいがちだが、現状を理解して初めて現在の事業方法について、良いとか悪いとか他の方法があるとかという議論ができる。今年資料では載っていないような現状報告があればより議論がしやすくなる。

事務局: 来年度ではより良い検証になるように資料を工夫する。

#### 4. 閉会

以上